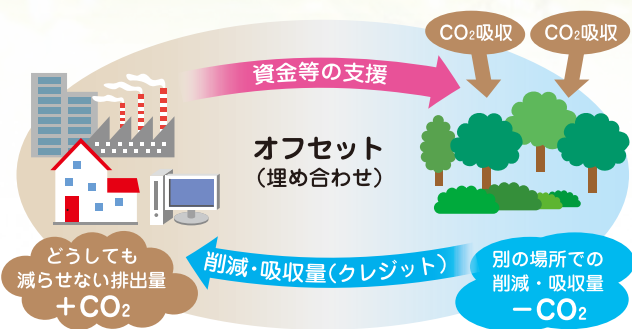


カーボン・オフセットとは…

私たちの日常の生活や、企業などが活動をするうえで、温室効果ガス(CO₂等)が排出されます。この温室効果ガスを、まずできるだけ排出量の削減努力を行い、それでも削減することができない排出量について、森林整備など温室効果ガスの削減活動に投資すること等により、排出される温室効果ガスを埋め合わせするという考え方です。

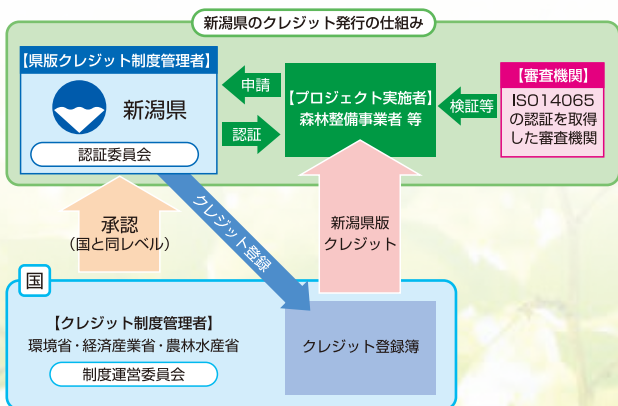
■カーボン・オフセットのイメージ



新潟県では、森林整備事業などのCO₂吸収活動に資金提供され、地域の森林整備にもつながる「一歩進んだ地球温暖化対策」として、カーボン・オフセットを推進しています。

「新潟県版J-クレジット制度」は、県内の森林整備による二酸化炭素吸収量や木質バイオマス固形燃料による二酸化炭素排出削減量を認証し、クレジット(新潟県版J-クレジット)を発行する制度です。

■新潟県のクレジット認証・発行の仕組み



魚沼市の概要

平成16年11月1日に、北魚沼郡堀之内町、小出町、湯之谷村、広神村、守門村、入広瀬村が合併して魚沼市が誕生しました。

魚沼市は、新潟県の南東部に位置し、面積は県内第4位の94,676haで、その広大な面積のうち、山林、原野が約84%を占めています。

市の中心部を流れるのは、鮎・ウグイ(ハヤ)・カジカなど数多くの魚が生息する魚野川、その支流である破間川(あぶるまがわ)、佐梨川、羽根川などの清流があります。

また、西を魚沼丘陵、東を三国山脈に挟まれた魚沼盆地の北方に位置し、夏は高温多湿、冬は3メートルもの積雪になる国内屈指の豪雪地帯であり、たくさんの雪は山々をつつみ、一面の雪景色となります。

この雪は春になると雪解け水となり、森をめぐり、安全で、きれいな水となって、私たちの飲み水になり、田畑を潤し、多くの生きもので育まれた大地を培うと共に、世界的にも有名な魚沼産コシヒカリ、深雪なすなどの野菜、ユリの花などを生み出しています。

【交通アクセス】

関越自動車道が横断しており、小出IC・堀之内ICが設置されています。近くに上越新幹線浦佐駅もあり、首都圏、県内主要都市までの交通は便利です。その他に、東京～新潟を結ぶ国道17号線(三国街道)、福島県へ連絡する国道252号線(六十里越)、352号線(銀山街道、枝折峠)などが通っています。



お問い合わせ・お申し込みは

魚沼市 市民福祉部 生活環境課

〒946-8601 新潟県魚沼市小出島910番地

T E L 025-792-9766

F A X 025-792-9500

E-MAIL kankyo@city.uonuma.lg.jp

雪の恵み、土の想い、森の夢

みんなであつなく命の環

新潟県魚沼市

魚沼
わくわくの森
クレジット

わくわくの森プロジェクトとは……

先人が育て守ってきた森の様々な恵みを活かし、田畑の土や森が力を持ち続けるには、地域住民の森に対する理解を深め、間伐等の森林整備を行い、地域の特性を活かした雪国魚沼らしい森づくりを推進することが必要です。

「雪の恵み、土の想い、森の夢～みんなでつなぐ命の環～魚沼わくわくの森プロジェクト」は、100年後でも森が本来もつ多くの機能を発揮し、人と自然の交流の場となる地域のシンボルであり、様々な可能性を秘めた「わくわくとした森」をつくることを目指します。



早春のブナ林



夏を走る 只見線



紅葉と奥只見湖



冬の権現堂山

《写真提供：(一社)魚沼市観光協会》

プロジェクトの概要

このプロジェクトによって得られた資金を活用して次のことに取り組みます。

①「魚沼市森林・林業再生方針」に基づいた適切な間伐による森林整備を実施し、二酸化炭素吸収機能、生物多様性保全機能、水源かん養機能など森林の多面的機能の整備と林業の活性化を推進します。



② バイオマス活用推進計画により間伐材、林地残材等の森林資源の活用を推進し、薪やペレットを燃料としたストーブや炭の利用の促進を図ります。



③ 間伐材の利用促進に向け、素材生産から加工、販売、建築までの木材が流れる仕組みづくりを構築し、地域の活性化につなげます。



④ 私たちの生活が、水や森林をはじめとする自然の恵みに支えられ、密接につながっていることの理解を深めるため、自然体験や環境学習を実施します。



⑤ 自然体験や環境学習による都市交流を深め、都市と地方の連携による地域活性化を目指します。

プロジェクト実施地

① 堀之内3林班



③ 守門70林班



④ 入広瀬50林班



① 堀之内4林班

② 湯之谷1林班



プロジェクト実施場所

- ① 堀之内 3・4林班
- ② 湯之谷 1林班
- ③ 守門 70林班
- ④ 入広瀬 50林班

認証対象期間		2015年4月1日～ 2023年3月31日(8年0ヶ月)	
吸収量	(実績値)	2015年度	164 t-CO ₂
		2016年度	248 t-CO ₂
		2017年度	290 t-CO ₂
		2018年度	335 t-CO ₂
		2019年度	346 t-CO ₂
	(計画値)	2020年度	330 t-CO ₂
		2021年度	302 t-CO ₂
		2022年度	294 t-CO ₂
合計		2,309 t-CO ₂	